

## 地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

建設局指示事項

不発明案。活用徹底。図る件。

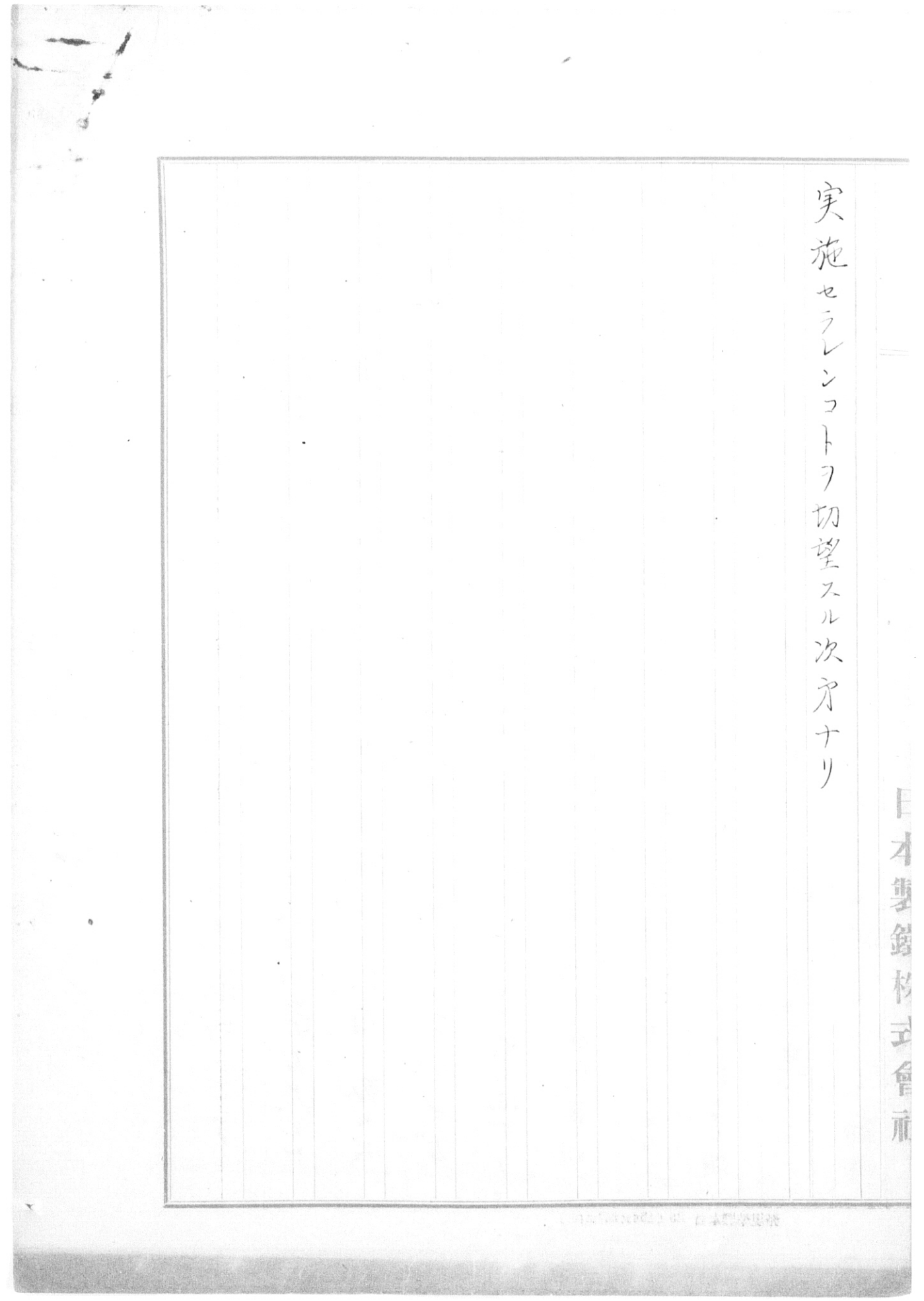
財局下創意ト工夫ヲ獎勵シ日鉄ノ全智能ヲ傾倒シテ鉄鋸  
生産ノ確保ノ邁進スベキ時期ニあり各作業所ニ於テ苦心ノ結  
果ニ成レル厠益ヲ見奉ル案が其作業所ノニ埋モレ連ニ  
社内全般ノ普及應用セラレザルハ詢ニ遺憾ナリ

例ハハハ情ニ於ケル平炉天井ノ修理方法又ハ広畑ニ於ケル「ドロマイ  
ト」投射機等何レモ簡便ニシテ出カモ頗ル厠益ヲ見奉ル案ナルニ抱テ  
ズ未ダ他作業所ニ於テ之カ実施ニ移サレタルコトヲ聞カズ其他ハ  
情ニ於ケル「他山ノ石」職場カヨリ「廣畑」ニ於ケル月善広畑本社建

設局ニ於ケル日鉄ニ務資料等夫々ノ作業所又ハ本社ニ於ケル  
 此種ノ資料ヲ案事項ノ取纏々々ノ業所關係者ニ配布シテ考  
 考ニ資シ居レルモ之等ノ概ネ「讀ミツ放シ」若クハ「知リツバナシ」ニ終リ  
 之ヲ應用シ實施スルノ執意ト勇力斷ト之ニシキ様思ハルハ残念ナリ  
 由來日本人ハ機械ヲ軟物トシテ十二分ニ之ヲ駆使スル事ニ聊カ不  
 得手ナルガ如シ、技術者亦改良ノ案事項頃ヲ即時實施ニ移  
 スノ勇斷ニ缺ケルトコロナキヤ「勇力不足ノ際殊ニ多教ノ工員ヲ使  
 役スルヲ其ノ好マシカラザル特徴ノ一ツトセラレ居ル本邦製鐵所ニアリ  
 テハ事情ノ許ス限度ニ於テ徹底セル機械力ノ應用ハ生産確保ト  
 勇力節約ト絶作不可缺ノ要件ナリ

卑近ノ例ナルモ熔鉱炉ノ出銑ノ際孔肉ケレ旧態依然トシテ  
 鉄棒ト鉄槌ヲ使用シテ總長ニテ不確實且ツ労力大ナル  
 方以テ固執シテ「エー」マケクハ「マ」等ノ機械力ノ利用ニ徹セズ  
 偶々使用スルトスルモ僅カノ故障若クハ不調子等ノタメ直ケレ之ガ  
 使用ヲ廢シテ顧ミガレガ如キハ我々技術者ノ反省スベキ事柄ナリ  
 ト思料ス今後ハ本社ニ於テモ之等ノ發明考案事項中有効適切  
 ト思ハルモノニ就テハ印刷物等ニテ一般周知方ニ努ムルト共ニ必要ニ  
 應ジテ作物運用改善委員會ノ事業ノ一ツトシテ商賣ナル指導班  
 ノ派遣方ヲモ考慮セルガ各作業所ニ於テモ之等ノ發明考案ニシテ  
 其ノ作業所ノ實情ニ即チ利用可能ノモノハ躊躇遂ニスルコトナリ即チ

一ノ是成未也



実施セラレントコトヲ切望スル次ナリ

日本製鋼株式会社

日本製鋼株式会社

指示事項 設備修理ニ関スル件

時局下鉄鋼生産確保ノ対策トシテ設備整備及技術ノ改善ニ  
 依ル生産解率ノ増進ヲ企図スベキ事ヨリナルカ一方ニ於テ工場事故  
 ノ防止ト修理期間ノ短縮ト依リ生産低下ヲ防止スルノ最捷徑タルヲ  
 痛感スルモノナリ今試ニ比較的順調ニ操業ヲ継続セシ最近一  
 年ニ於ケル工場事故ヲ徴スルニ別紙ノ通り甚ノ重大ナルモノ件數ニシテ  
 箇工有届出ニヨルモノ約三〇件之ニ依ル鉄鋼ノ生産減ハ約四〇〇〇噸  
 ニシテ右以外ノ工場少サイ事故ノ件數及之ニ起因スル鉄鋼ノ生産減  
 ノ累計ハ恐ラク右ノ數字ヲ遙ニ凌駕スベキヲ想像セラル

例ニ公稱一〇〇〇噸高炉ノ生産ニツイテハ原料關係ト操業關係トニ分

一ノ製鉄未也

## 日本製鐵株式會社

ケテ考ヘテ見ル。即チ割當ラレタル原料ヲ最大ノ効率ヲ昂ケルコトヲ  
種々勘案シテ生産予定ヲ作ル訣デアルガ原料關係ノ良否影響白ハ亦  
常ニ大キク一〇〇屯高炉ガセ。モ一八〇屯ト定マツテアル訣デアリマス。  
此生産予定ヲ確保スルコトハ故障ヲ無クスルコトニアルト思ハレル之レハ  
操業ニ從事スルモノ、工場ヲ預ソテ居ル者ノ分担スル重大ナル責任ト  
信スル。故障ガ生産ニ影響シテハ宜ニ申訣ナイ次オデアル  
而シテ之等工場事故ノ原因究明ニツキテハ

- (一) 設計スル製作施行上ノ缺陷若クハ材質ノ不良ニ起因スルモノ
- (二) 技術未熟ニ依ルモノ
- (三) 作業上ノ無理又ハ保守ノ不行届ニ依ルモノ

(四) 永年使用スル寿命ノ到来

其他不可抗クニ依ルモノ等ヲ舉ゲ得バク之ガ対策トシテハ昨年来  
 本社ニ於テ種々案出シ 第一項ノ設計其他ニ起因スルモノニ對シテハ  
 曩ニ制定セラレタル設備使用成績報告規程ノ活用ニ基キ其根本  
 原因ヲ究明シ又第二項ノ技術ノ未熟ニ對シテハ<sup>現在</sup>着々実効ヲ收メツ、  
 アル工作物運用改善委員会トカ又機械ノ愛護即人作ヲ云ハハ保健  
 衛生ノ爲ニ此程制定ヲ見タル機械装置ノ定期検査規程ノ運用  
 ニ依リ事故ヲ未也ニ防止スルガ先決條件ト謂フバク之等ノ事故  
 未也防止ノ手段ヲ完全ニスレバ事故ハ絶トナル訣ナルガ工員ノ未  
 熟等ニテソコ行カヌ。ソコテ己ムヲ得ズシテ生ズル事故ハアルモノト

規格標準本日 B5 (182x267mm)



日本製鋼株式會社

考へナケレバナラヌ、之レニ対シテハ後刻説明スベキ修理期間短縮協議  
 会ニ於ケル諸決定事項ノ運用ニ依リ修理期間ノ短縮ヲ図ラナケレバナラヌ、  
 従来修理ニツキテハ一般ニ考へガヤ、モスレバオニ義的ニ考へラレタルノ傾キアリ  
 而シテ修理期間即チ「時間」ノ觀念薄ク「經費」ノ觀念ヨリ力点ヲ置キ  
 輕ク考へラレタル憾ミアリ。平時ニ於テハソレニテモ宜敷モ決戦ノ刻下ニ於テハ  
 「早く完成スル」コトオ一義ニ要ホサレテ居ル。例ソロモン戦ノ飛石作戦ニ於ケ  
 ル航空基地<sup>(建設)</sup>ノ土木技術一經濟ヲ無視シテ只官運<sup>(運送)</sup>ノ意シソ、干高  
 度<sup>(高度)</sup>機械化ニテ教日ニテ飛行機場ヲ完成スル  
 又曰露戦争ニ於ケル聯合艦隊ノ大修理ノ話ハ有名ナル話デアツテ  
 旅順ノ攻略ヲ終ヘ新米ノバルチック艦隊ヲ撃滅シナケレバナラヌ重要時期

於テ全機隊ノ修理ハ一刻ノ争ヲモテアツタ而シテ検査ノ結果ニテ月  
 シ要スルト算定サレタ、然ルニ各車港ノ工廠員ハ夜モ眠ラズ必死ノ努力  
 シテ一ヶ月ヲ之ヲ完成シタ之カ爲メ一ヶ月早く敵撃滅ノ猛訓練  
 ラ開始スルコトが出来其ノ結果アノ大勝トナツタ訣テアル、日鉄ノ使命  
 ハ正ニ之レニ匹適スルモノト云フベク日鉄精神ハ之ト同様ノコト  
 が出来ルト信シマス

熔鉱炉及コークス炉、定期大修理ニ対シテハ巡回修理班ヲ活用シテ日鉄  
 全作トシテ修理ノ適正ト迅速トヲ期シテ訣テ今後大イニ活用セラレ  
 タイ。

而シテ本社トシテ各作業所一般修理能力ノ不足ニ対シテハ設備ノ整

日本製鉄株式会社

備う図ルベク現ニ工作機械及電気機械類ノ購入ニ努力中ニテ既ニ購入  
 階及購入契約済ノモノミニテ四百数十台ニ上リ尚引続キ購入手續  
 中ニテ購入済ノモノハ各作業所ニ重点的ニ配給ニテ居ル尚此外  
 ニ修理工場ノ買収並ニ修理ニ付スル協力工場ノ利用等ニ関シテモ軍其  
 他関係當局並ニ鉄鋼統制會等ニ接洽斡旋ニ依リ具體的ニ計畫ヲ進  
 メテアル又社長ニ於カテモ特ニ御留意下ラレ軍ノ方カラ工作機械~~取~~  
 得及工員ノ転傭ニツキ連絡ヲレタト漏承ツテ居リマス。

之ハ實現ノ曉ニ於テハ各作業所向ニ於ケル修理向資材及予備品等  
 ノ相互融通計畫ト相俟ツテ現在ノ修理能力ノ不足モ相支~~後~~  
 和セラル、モノト信ス

猶申添へル、

\*

\*

\*

作業所内、修理責任者

生産工場、  
業務関係、工作電気土木建築等

人分担責任

総合責任、或、重要な修理ハ技師長自ラ責任者トナラレル必要アルベシ

最後、設備使用実績報告規程

此工作物運用改善委員会

定期検査規程

修理期間短縮

巡回修理班

次、規程、消極的ニシテ積極的治

用ナリ、空文ニ終ラズ実行ニ在リ

実行ニハ努力力シ要ス

是、敬請精神ヲ突指致シテ

之、中々、殊、要道ナリ

指前事項 設備修理二回之作 号々等

生産ニ影響セル重大ナル事故 (自昭和三八至昭和三八七)

作業所名	事故発生年月日	工場名	事故名称	休業止期間	減産量
七、八二一		三厚板工場	ロールレタクシヨシギヤ一缺損	六日間	厚板 二〇〇〇 飛
七、八三三		珪素鋼板工場	二四〇四原動機故障	未詳	薄板 五〇〇 珪素鋼板 五〇〇
七、九一九		三厚板工場	減装置故障	一三五時間	厚板 一七〇〇
七、〇元		西田発電所	二〇付蒸気本管フランジパッキンが破損	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百	鋼材 四七八
八、一三七		第一分塊工場	四〇〇〇キョワット主電動機電動子線輪焼損	三日間	鋼片 六〇〇
八、五元		第三小形工場	フライホイール折損	六日十二時間三五分	鋼材 一〇〇〇
八、六六一		東田第六熔鉱炉	炉底熔損	二七時間	銑鉄 三〇〇
八、六四四		平鋼工場	モーター用カップリング故障	五〇時間三〇分	厚板 三五〇

八幡

輪西	事故発生年月日	工場名	事故名称	休業止期間	減産量
七、八三二		仲町第二熔鉱炉	炉底破損ス	四時間三〇分	銑鉄 七〇〇 飛
八、一四		仲町第二熔鉱炉	捲揚定バット脱落 ターミネール破損	三四時間半	銑鉄 五〇〇 六五〇
八、一五		製鋼工場	地下排水管故障 ニヨリニニ ニ号平炉 カナルニ浸水ノタメ 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百	九日八時間 一七時間 二一時間	鋼塊 四八六二
八、一三〇		仲町第一製鉄課	送風機室一〇〇キョ電動機吐出線ケーブルヘッドスパークシ絶縁破壊 シソレニ依リ中央発電所内線停電ス ノノ影響ニヨリ第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百	二時間四〇分	銑鉄 仲町三三二 輪西二〇〇 計五二二 鋼塊 一〇六二 線材 四六 コークス 二六三 コークス 二六三 コークス 二六三
八、四一〇		仲町第一熔鉱炉	炉頂金物修繕ニヨル	六日三時間	銑鉄 一、二〇〇
八、五元		仲町第一熔鉱炉	捲揚ブレーキシャフト折損 タニテール回転固定歯車基礎ボルト折損	五二時間一〇分	銑鉄 六〇〇
八、五元		仲町第一熔鉱炉	タンネール回転固定歯車基礎ボルト折損	四九時間二五分	銑鉄 六〇〇

輪西

合計表

作業所	事故件数	休止時間	銑鉄	鋼塊	鋼材	コークス	コーク
八幡	八	六〇一	三〇〇	八五三	八五三	二六三	一〇〇
輪西	七	八八九	四七二	五九二	四六	二六三	一〇〇
釜石	四	二〇八二	八八五〇	一七三四			
富士	一	九六		二八〇			
廣畑	四	五一〇六	七〇〇〇	一〇〇〇			
兼二浦	三	九五	一八〇	三五〇	二〇〇		
清津	四	一三一	四五〇〇				
合計	三二	四四三九	二五六〇	七二七四	一〇七八八	二六三	一〇〇

八幡電動機其他電気設備ノ故障ノ起因ナル見込減産高

期	同	鋼材	鋼塊	銑鉄	計
昭和十六年度 (自十六年四月至十七年三月)	二五、二八四	三〇六六	二五〇〇	三〇、八五〇	
昭和十七年度 (自十七年四月至十八年三月)	三〇、〇三五	一八三	五〇〇	三〇、七二八	

清津			兼二浦		
一八三三	一七二六	一七九五	一七八三	一七八三	一七八一
第二貯鉄場	第一熔鉄炉	第一熔鉄炉	第一熔鉄炉	第一平炉	四号低磷鉄炉
橋型起重機事故 (ホイールギヤボルト切損ノタメ)	コックスコンベヤシフト折損 其他機械的故障	除塵器破損ニ由ル事故	灰分多ク炉况不良	豪雨ニヨリ休止	豪雨ニヨリ休止 口浸入ノタメ
一八時間	不詳	七時間	四日間	二四時間	六三時間
鉄鉄 八〇〇	不詳	鉄鉄 二〇〇	鉄鉄 一七〇〇	鋼塊 二〇〇	低磷鉄 一八〇 他 鋼塊 三五〇

廣畑		富士		釜石		
一八七五	一八七〇	一八三三	一七七三	一八七三	一七〇二	一七九〇
第一熔鉄炉	製鋼工場	第一熔鉄炉	第一熔鉄炉	分塊工場	第十熔鉄炉	第十熔鉄炉
明日修理ノタメ休後炉况不良	平炉冷却管熔損	出鉄口煉瓦壁熔損ノタメ	給水ポンプ故障ノタメ	分塊ロール機裏ローラーテーブル 第一番目折損	変圧機故障ノタメ	タンテーブル事故故障ノタメ
一六日間	一平炉 四二時間 二平炉 六六時五分	四時 三五分	一三時間 一〇分	四二時間	五日間	一ヶ月
鉄鉄 六〇〇	鋼塊 一〇〇〇	鉄鉄 四〇〇	鉄鉄 六〇〇	鋼片 一七三四	鉄鉄 二七〇〇	鉄鉄 六〇〇〇

全計表

作業所	事故件数	休止時間	銑鉄	鋼塊	鋼材	コクス	コリス
八階	八件	六二〇・一時間	三〇〇	八五二	四六	二六三	一〇〇
輪西	七	八八九・二	四七三	五九三	四六	二六三	一〇〇
釜石	四	六〇八・二	八八五		一七三		
富士	一	九六			二八〇		
廣畑	四	五一〇・六	七〇〇	一〇〇〇			
兼三浦	三	九五	一八〇	三五〇	二〇〇		
清津	四	一一一	四五〇				
合計	三一	四四一・三九	二五六一・二	七二七・四	一〇七八・八	二六三	一〇〇

八階電動機其他電気設備ノ故障ノ起因スル見込減産高

期	同	鋼塊	鋼塊	銑鉄	計
昭和十六年度 (自十六年四月至十七年三月)	二五、二八四	三〇六六	二五〇〇	三〇、八五〇	
昭和十七年度 (自十七年四月至十八年三月)	三〇、〇三五	一八三	五〇〇	三〇、七八八	



合計表

作業所	事故件数	休止時間	銑鉄	鋼塊	鋼材	コークス	コライト
八幡	八	六二〇・一	三〇〇	八五三八	八五三八		
輪西	七	八八九・二	四七七二	五九二四	四六	二六三	一〇〇
釜石	四	二〇八二	八八五〇		一七三四		
富士	一	九六			二八〇		
廣畑	四	五一〇・六	七〇〇〇	一〇〇〇			
兼二浦	三	九五	一八〇	三五〇	二〇〇		
清津	四	一二一	四五〇〇				
合計	三一	四、四一三・九	二五、六〇二	七、二七四	一〇、七八八	二六三	一〇〇

八幡電動機其他電気設備ノ故障ノ起因スル見込減産高

期	鋼材	鋼塊	銑鉄	計
昭和十六年度 (自十六年四月 至十七年三月)	二五、二八四	三、〇六六	二、五〇〇	三〇、八五〇
昭和十七年度 (自十七年三月 至十八年三月)	三〇、〇三五	一、八三	五〇〇	三〇、七一八